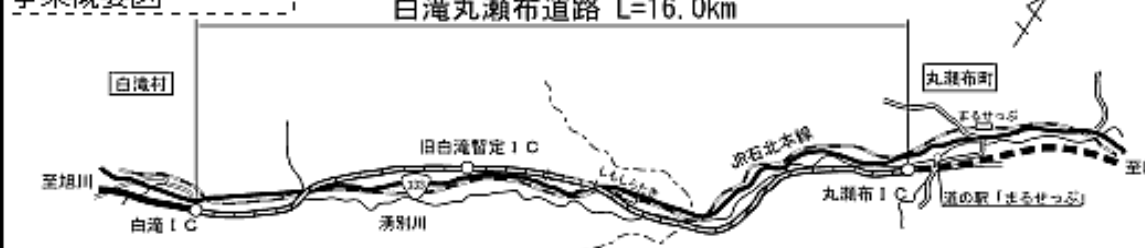


再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：中島威夫

事業名	一般国道450号旭川・紋別自動車道 白滝丸瀬布道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局										
起終点	自：北海道紋別郡白滝村字白滝 至：北海道紋別郡丸瀬布町字中島	延長	16.0km												
事業概要	旭川・紋別自動車道は、旭川市から紋別市に至る延長約130kmの一般国道の自動車専用道路で、北海道縦貫自動車道と一体となって高速交通ネットワークを形成する路線である。白滝丸瀬布道路は、旭川・紋別自動車道の一部を形成する延長16.0kmの区間である。														
H6年度事業化		H10年度用地着手		H11年度工事着手											
全体事業費	約385億円	事業進捗率	55%	供用済延長	0.0km										
計画交通量	12,500台/日														
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.3 (事業費) 8.1	総費用 (事業費/事業全体) 175 / 329億円 (事業費：135/289億円) 維持管理費：40/40億円	総便益 (事業費/事業全体) 1,417/1,417億円 (走行時間短縮便益：1177/1177億円) 走行費用減少便益：133/133億円 交通事故減少便益：53/53億円	基準年	平成15年										
感度分析の結果	事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.8(交通量+10%) B/C=3.8(交通量-10%) 事業費変動：B/C=4.0(事業費+10%) B/C=4.7(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=4.0(事業期間+20%) B/C=4.7(事業期間-20%)														
事業の効果等	・国土・地域ネットワークの構築（隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する） ・物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる） 他12項目に該当														
関係する地方公共団体等の意見	高規格幹線道路旭川・紋別自動車道早期建設促進期成会、網走支庁管内総合開発期成会等5つの期成会より毎年事業促進の要望を受けている。														
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成14年3月に旭川・紋別自動車道浮島IC～白滝IC間供用開始。														
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成8年度に環境影響評価の手続きを終了。平成10年度に用地着手、平成11年度に工事着手し、現在は全区間において工事を展開している。残事業は主にトンネル、橋梁である。														
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	用地取得が順調に進めば、平成18年度頃に白滝暫定ICから丸瀬布ICまで部分供用し、早期に全線の供用を図る。														
施設の構造や工法の変更等	鋼コングリート合成床版の橋梁の採用等コスト縮減を図っている。														
対応方針	事業継続														
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
事業概要図	白滝丸瀬布道路 L=16.0km  <table border="1" data-bbox="1228 1881 1484 2049"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>供 用 中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事 業 中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再 評 価 箇 所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>う ち 供 用 中</td> </tr> </tbody> </table>					凡 例			供 用 中		事 業 中		再 評 価 箇 所		う ち 供 用 中
凡 例															
	供 用 中														
	事 業 中														
	再 評 価 箇 所														
	う ち 供 用 中														

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。